

7月12日～13日梅雨前線に伴う
玉川ダムの効果について

7月12日から13日にかけて、梅雨前線の停滞に伴う降雨による出水となり、玉川ダムでは流入量が増加したため、下流河川の増水を低減させるために「洪水調節」を行い、約1,186万立方メートルの水量をダムに貯め込みました。
雄物川の基準地点である、秋田市椿川地点では約40cmの水位低減効果があり、もし玉川ダムによる洪水調節が無かった場合、「避難判断水位」を超えていたことが予想されます。

※「避難判断水位」

市町村長の避難勧告等発令判断、住民等の避難判断の目安となる水位で、洪水予報指定河川では、平成19年度に新規設定された水位です。

※水位低減量は速報値です。

■洪水発生日

平成25年 7月12日～13日

■7月12日～13日の洪水

最大流入量の時刻	3時00分
最大流入量	500.08
最大流入時の放流量	199.56
調節量	毎秒 約300立方メートル
貯留量	約1,186万立方メートル

※最大流入量＝ダムに入ってきた1秒間の最大の水の量

※最大流入量時の放流量＝1秒間に最大の水の量が入ってきているときにダムから流している水の量

発表記者会：秋田県政記者会

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 玉川ダム管理所

管理所長 柴田 富士男(内線:201)

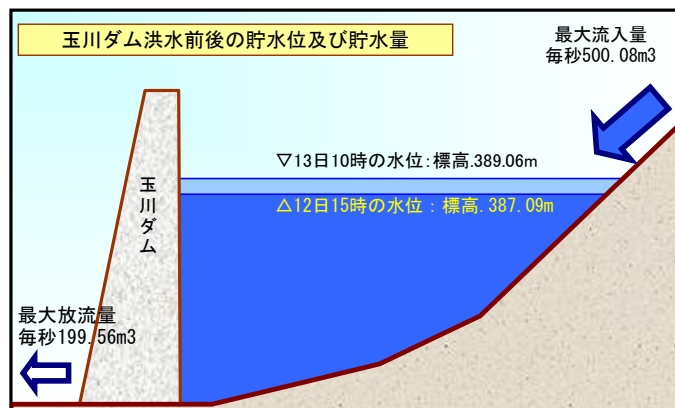
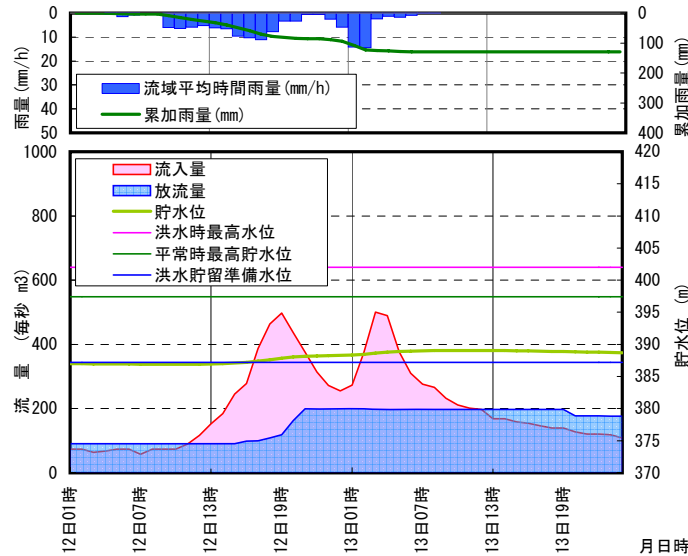
管理係長 細川 朋(内線:332)

〒014-1205 秋田県仙北市田沢湖玉川字下水無92

TEL:0187-49-2170 / FAX:0187-49-2166

7月12日～13日 梅雨前線による出水における玉川ダムの効果

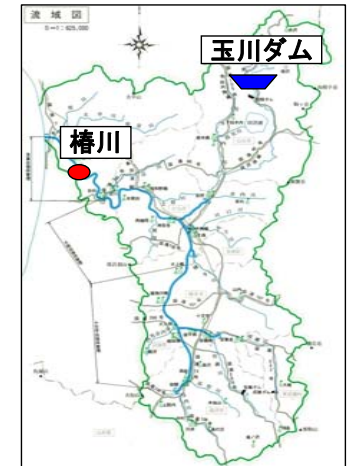
今回の洪水において、玉川ダムでは最大流入量 毎秒500.08m³(13日3時)を記録しました。12日15時には洪水量(ダムへの流入量が毎秒200m³)に達し、洪水調節を開始。約1,186万m³をダムに貯め込み、下流被害の軽減に努めました。



約1,186万m³の水をダムに貯めました

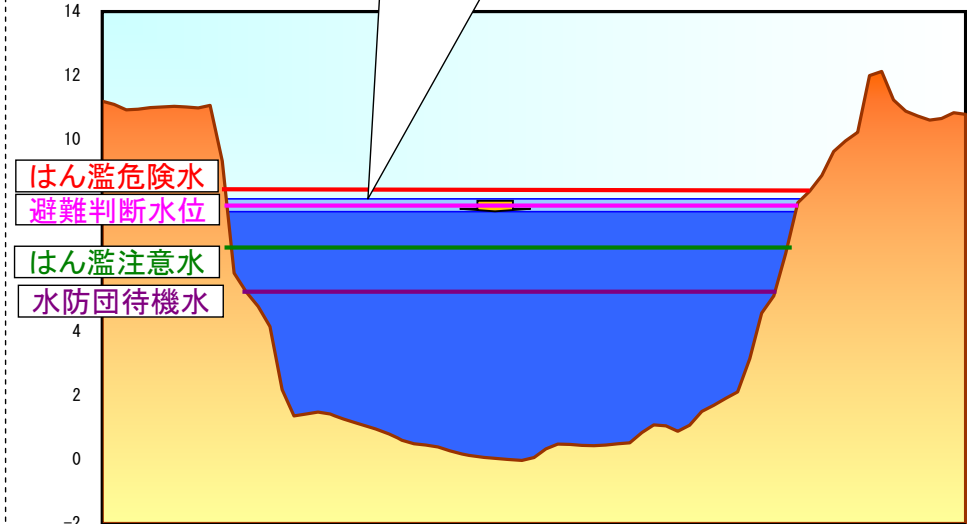
これは、
東京ドーム 約9.6個分
(124万m³)
セリオン 約17個分
(秋田ポートタワー)
(約68万m³)
25mプール 約23.712杯分
(約500m³)
に相当します

下流河川(秋田市椿川地点)での水位低減効果



玉川ダムの洪水調節効果により、
水位が約40cm低下

※速報値



※ダムがない場合、避難判断水位に達したものと想定されます。